

第2回 長崎港元船地区整備構想検討会議 会議録

日時:令和5年9月6日(水)13時30分～

場所:大波止ビル7階会議室

○【開 会】

○【議 事】

1. 第1回検討会議の振り返り
2. 施設配置計画と整備イメージ
3. PFI 事業導入のための民間事業者サウンディング実施予定

○【閉 会】

【配布資料】

資料1 出席者名簿

資料2 配席図

資料3 長崎港元船地区整備構想検討会議 設置要綱

資料4 第1回検討会議の振り返り

資料5 施設配置計画と整備イメージ

資料6 PFI 事業導入のための民間事業者サウンディング実施予定

資料7 今後の検討スケジュール

【会議結果】

○施設配置計画案については、本案をベースに、整備構想案のとりまとめに進む。

○今後のとりまとめについては、以下の点に留意する。

- ・PFI 事業を推進するなかで、地元とも一緒に話をしながら進め、地元も一体となって携わっていく。
- ・たとえば、市場などで購入したものを屋上で食べるといった、港であることを活かした企画の検討。
- ・新モビリティ等を活用しながら、他地区との連携もしっかり視野に入れて、元船地区の賑わいを考えていく。
- ・大きな観光コンテンツである軍艦島クルーズを含め、繁忙期においても、満足する待合所機能の確保および駐車場機能の確保。
- ・修学旅行生やクルーズ客も含め、団体が食事できる機能や大型バスの駐車スペースを確保について検討。
- ・長崎の魚を飲食できる空間や、観光客だけでなく、地元が利用するような施設の検討。
- ・出島ワープから、元船地区、出島メッセを通り、スタジアムシティといった動線をいかに楽しませるか、かつスムーズな動線であることが大事。
- ・長崎駅や元船地区を含め、いかにまちなかへの回遊性を高めるかが必要であり、相乗効果を得ることが重要。
- ・どのような視点が重要かのポイントを提示したうえで、サウンディングを実施していく。
- ・サウンディングにおいて、確実に反映すべきや評価すべきところは明確にしていく。

【会議詳細】

○主催者挨拶（長崎県副知事）

- ・元船地区は、県民市民や関係者の関心も高く、長崎駅周辺開発や、松が枝地区クルーズ船ふ頭整備などと連携し、臨海部である元船地区についても、相乗効果を生み出すよう、連動した整備を進めて行く必要があると、あらためて実感。
- ・周辺エリアも含め、この元船地区自体が、目的地の1つになるように、周辺地区とも連携したウォークアブルなところにしていく必要がある。
- ・本日は、どの場所にどのような施設の配置が望ましいのかといった「施設配置計画案」についてご議論頂き、方向性を取りまとめたうえで、次回会議にて「長崎港元船地区整備構想（案）」のとりまとめに進んでいければと考えている。
- ・本整備構想の実現のためには、官民が連携した整備や施設運営が不可欠であり、そのためにも、施設配置計画の実現性や具体的な内容については、民間事業者のお知恵も頂きながら、実現に向けた検討をしていければと考えている。
- ・整備構想の根幹の一つが、施設配置計画になると思う。元船地区の一層の発展、ひいては、本県の発展に繋がるよう、委員の皆さま方の忌憚のないご意見を頂戴できればと思う。

○資料3 長崎港元船地区整備構想検討会議 設置要綱

- ・異議なしにて原案の通り承認。変更施行日は令和5年9月6日。

~~~~以下、議事に関する質疑・応答内容~~~~

### ○資料4 第1回検討会議の振り返り

- ・質疑なし

### ○資料5 施設配置計画と整備イメージ

#### （委員）

- ・これまで幾度となく、協議を実施しており、施設配置の内容について、満足するものになっている。
- ・観光客目線も必要であるが、利用者の大半は市民など、地元利用もある。PFI 事業を推進するなかで、構想倒れにならないよう、引き続き、地元とも一緒に話をしながら進めて頂きたい。地元も一体となって携わっていきたい。

#### （委員）

- ・元船地区にくると、港を感じる楽しさや、たとえば、市場などで購入したものを屋上で食べるといった、港であることを活かした企画があれば、いいのではないか。
- ・1カ所にぎわい施設だけを大事にして育てても限界がある。電動キックボードなどのモビリティを活用しながら、元々あるにぎわい地区や新しく整備を考えている地区との連携もしっかり視野に入れて、元船のことを考えていかなければならない。

### (委員)

・やはり、元船地区の大きな観光コンテンツとして、軍艦島クルーズが挙げられる。しかし、繁忙期は、待合所が不足しており、外での待機を余儀なくされる場合もある。また、駐車場が満車で入れずに、時間に間に合わないケースも生じている。そのため、待合所機能の確保および駐車場機能の確保が必要と考える。

### (委員)

・現在、検討している施設配置計画について、異論を唱える部分はない。そのうえで、以下の3点について尋ねたい。

- ①岸壁の強化、特に土圧軽減とはどのようなイメージか。
- ②内航 RORO 船では、重荷重物の取り扱いもあり得るが、それに耐えうる可動橋の配置を検討していくことになるのか。
- ③元船地区周辺での緊急物資の支援などの対応はどのようになるのか。

### (事務局)

- ①地震時等において、岸壁の破損が軽微に留まるように補強する形。たとえば、背後土圧を軽減するために、土の単位体積重量を軽減させるなど。また、液状化することで、土地が隆起し、使えなくなってしまうことも考えられる。
- ②可動橋の耐荷重については、今後、RORO での運搬可能物にも耐えられる検討を進めていきたい。
- ③元船地区においては、旅客フェリー岸壁においても災害に強い構造で検討するイメージとしているが、県庁の岸壁は災害時に緊急的に防災拠点とされるように整備されている。県庁の岸壁とのセットで、防災機能を確保していく必要がある。

### (委員)

・修学旅行生や、多くて1000人規模となる出島メッセ長崎の利用者も含め、団体が食事できる機能を確保してほしい。

・また、修学旅行生やクルーズ船も含め、大型バスが駐車できる機能の配置が必要かと思う。

・長崎の魚を飲食できる空間があればいいと思うし、観光客だけでなく、地元が利用するような施設でもあるべきと考える。

### (委員)

・楽しみであり、よい計画になっていると思う。

・出島ワーフから、元船地区、出島メッセを通り、スタジアムシティといった動線をいかに楽しませるかということが大事となってくる。また、スムーズな動線であることも必要。

・また、駐車場機能も必要であるし、どのような施設を配置するかは大事である。そこは、下関の唐戸市場のように、長崎の魚を取り上げるイメージでもよいのではないかと。

### (委員)

・元船地区の整備により、駅からベイエリアでの南北の連続性ができてくる。その中で、みなどに関する学習体験となるような仕掛けもあってよいかと思う。

- ・南北の連続性ができつつある中、それを浜町や新地中華街など、いかに東西にも連続させ、賑わいを持たせていくかが今後の長崎市の課題である。

**(委員)**

- ・長崎駅や元船地区を含め、いかにまちなかへの回遊性を高めるかが必要であり、相乗効果を得ることが重要。そのためには、図の赤で示している歩行者動線は遠回りであり、駅周辺開発の民間施設とも連携し、歩きやすい動線などの検討が必要だと考える。

**(議長:長崎県副知事)**

頂いたご意見をもとに、本施設配置計画案をベースとし、整備構想案のとりまとめに関して、事務局に進めていってよろしいか。

**(委員)**

- ・異議なし

**○資料6 PFI 事業導入のための民間事業者サウンディング実施予定**

**(委員)**

- ・にぎわい機能については、そのまま聞くのではなく、本日ご意見いただいた内容を踏まえ、どのような視点が重要かのポイントを提示したうえで、サウンディングを実施してはどうか。

**(事務局)**

- ・そのように実施していく。

**(委員)**

- ・実際にPFI事業を公募し、複数事業者の中から、一つの事業者を決定するにあたり、複数事業者の良い所のみを切り取って組み合わせることができない。今後のサウンディングにおいては、確実に反映すべきところや評価すべきところは明確にしておいた方がよい。

**(議長:長崎県副知事)**

それでは、本スケジュールに沿って、事務局にてサウンディングを進めていくこと。

~~~~~以上、議事内容~~~~~

○資料7 今後の検討スケジュール

(委員)

- ・サウンディング結果に関しては、本検討会でも報告するのか。

(事務局)

- ・はい。民間事業者のノウハウ部分などには注意したうえで、検討会で報告し、議論いただきたいと考えている。

(委員)

・本日議論した方向性では実現が困難であるとの意見が多数の場合や、違う観点について、民間事業者からよい提案や意見があった場合は、どうするのか。

(事務局)

・民間事業者からの意見も踏まえ、必要に応じ、本日の内容についても軌道修正しながら、12月に予定している次回検討会でご議論頂きたいと考えている。

以上